

開催趣旨説明

松本 光朗（森林総合研究所 REDD 研究開発センター長）

REDD 研究開発センターが設立され、今回で5回目の国際セミナーになる。これまでは、経験や実践に関する情報交換や、技術的な議論を行ってきた。毎回、世界各国から著名で優秀な発表者をお招きし、最新の情報に基づいて議論が行われてきた。

森林総合研究所は主に技術的な研究開発が得意な研究機関であり、資金の話題はこれまで取り扱ってこなかった。しかし、REDD プラスを進めていくに当たって、今、資金の話をしないまま進めることはできない。ワルシャワで開催された COP19 において、技術的な交渉が終了し、資金へと議論が移ってきている。そこで、2014 年度は REDD プラスの資金メカニズムとその効果的な利用に関して、気候変動と森林の国際セミナーを開催する。

Background

- REDD+ has a large potential to provide financial incentives to promote forest conservation and sustainable forest management as well as to enhance greenhouse gas emissions reductions in developing countries.
- The Warsaw Framework for REDD+ at COP19 is a conclusion of technical issues of REDD+.
- Discussion on finance for REDD+ is required now.
- Designing an effective finance scheme is a key elements of REDD+.
- This seminar is focusing on finance issues for REDD+.



REDD プラスは、森林減少・劣化からの温室効果ガス排出削減、そして森林の保全等を通して気候問題を解決していく一つの大きなメカニズムである。その最大の特徴は、その結果に基づいて資金的なインセンティブが与えられるというところにある。COP19 の「REDD プラスのためのワルシャワ枠組み」で合意された技術的な枠組みに基づいて、REDD プラス活動は実施されている。これは、まさにわれわれや途上国の現場で得られた経験や実績を基に議論し、国際的な場で合意されたという、皆さんの参加の結果が技術的な結論に至ったと考えている。そこで、次は資金の問題について議論したい。

効果的な資金のスキームのデザインが REDD プラスの一番大きな問題となっている。このセミナーはまさにそこに焦点を当て、2 日間の議論を行う。1 日目の話題は、いかに資金を確保するか、スキームをつくっていくかということがポイントになる。

Program, Day 1
Session1
Key note speech: Financial Mechanisms to Address Climate Change, their Achievements and Challenges: From the Perspective of REDD+ Prof. Yukari Takamura, Nagoya Univ.
Session2
Challenging multilateral and bilateral finance for REDD+ towards effective readiness and beyond[Video conference]
Session3
Role of business and civil society in promoting effective financing for REDD+
Session 4
Panel discussion : Building effective REDD+ financing schemes at the international, regional and national levels



Program, Day 2
Session1
Key note speech: REDD+ finances: Current issues and questions Dr. William Sunderlin, Center for International Forestry Research
Session2
Management and operation of REDD+ related funds in developing countries
Session3
Designing effective national financing systems for forest conservation and sustainable forest management: Lessons from payment mechanisms for environmental services (PES)
Session 4
Panel discussion : Effective utilization of REDD+ finance at national and sub-national levels: No smaller challenges than accessing adequate funding



セッション1では、高村氏から、国際交渉全体の中での資金、その中での REDD プラスの位置付と今後の展望についてお話しください。セッション2では、先進国および途上国における国レベルでのスキームや取り組み、その効果的な利用について講演ください。セッション3では、政府ではなく、民間のレベルでの取り組みを話題にする。それらの発表を踏まえ、セッション4ではパネルディスカッションを行いたい。

2日目は、また違った側面から議論し、ホスト国などの途上国、そして現場における効果的な資金の利用に焦点を当てたい。まず CIFOR の William Sunderlin 氏によって、国レベルで取り組む場合とプロジェクトレベルで取り組む場合、それぞれの問題点とその解決方法についてお話しください。セッション2では、実際に各国でどのような管理運用が行われているか、セッション3では、実際に現場レベルやプロジェクトレベルで取り組まれているファイナンス、特に Payment for Ecosystem Services (PES) の話題など、実際の取り組みを紹介ください。セッション4では、それを踏まえ、効果的な利用についてパネルディスカッションをしたい。

以上が今回のセミナーの全体構成となる。REDDプラスのファイナンスに関するセミナーにおいて、世界各国からこれほど多数の専門家や経験者が集まる場は世界でもそれほどないと思う。最新の話題が各スピーカーから発表されるだろう。私も今日の午後、JCM（二国間クレジット制度）におけるREDDプラスのガイドライン¹についてお話するが、それが今日、初めての発表になる。この2日間、どうぞ熱い議論を楽しんでほしい。

¹ http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rc/ja/reference/01/redd_guideline.pdf